



発行所 中日新聞社  
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号  
〒460-8511 電話 052(201)8811

# 名古屋市が導水路撤退

## 徳山ダム河村市長方針

### 本年度「支払わぬ」通告 負担金

名古屋市の河村たかし市長は十四日、徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の水を、同市と愛知県の取水口がある木曾川まで流す「木曾川水系連絡導水路事業」から撤退する方針を明らかにした。同ダムから毎秒一・七リットル水できる権利は放棄する。―関連③面

### 国と東海3県反発必至

市が撤退しても、導水路の規模を小さくするなどして事業費を削減するのは難しい。事業継続には、市と同じく権利を持つ愛知県を中心に、国や岐阜、三重両県の負担が増す可能性があるが、反発が起るのは必至だ。

導水路は水資源機構が本年度に着工し、総

**木曾川水系連絡導水路事業**  
揖斐川と木曾川を直径4



材、全長43kmの地下トンネルで結び、徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の水を毎秒4リットル、濁水時は同20リットル、木曾川に放流する。木曾川には愛知県と名古屋市の取水施設があり、都市用水への利用、濁水時の木曾、長良川両河川の環境改善などが目的。上流―下流の2ルート

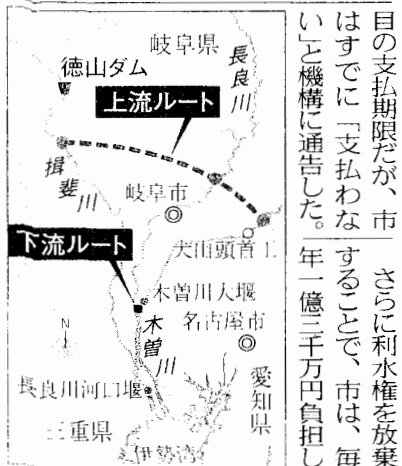
建設する計画。2009年度に着工し15年度の完成が目標で、総事業費890億円は国と愛知、岐阜、三重各県と名古屋市が負担する。

事業費八百九十億円の負担する計画。市のうち、市は二〇一五年 本年度分一億六千万円程度までに百一十一億円は今年二十五日が一

ている徳山ダムの維持管理費も今後は支払わない構え。ただ、二千五百億円をかけて完成したダムの建設費は、市負担分のうち九十億円を返しただけで、今後二十年余かけて利息も含め三百億円を支払う必要がある。

九七〇年代をピークに減っている。さらに何百億円も投じて導水路を造る必要があるのか。濁水時には節水や農業用水の活用など市民の協力で乗り切れる―と話し、導水路事業そのものの見直し議論に火を付けた姿勢も示す。早々に討論会を開き、市民の声も聞

きたいとしている。導水路建設には名古屋市の議会でも一部に疑問の声が上がったことはあるが、大勢は建設に同意しており、河村市長の方針には今後、議会が反発する可能性もある。河村市長は、民主党の衆院議員時代から徳山ダムには反対の立場をとっていた。



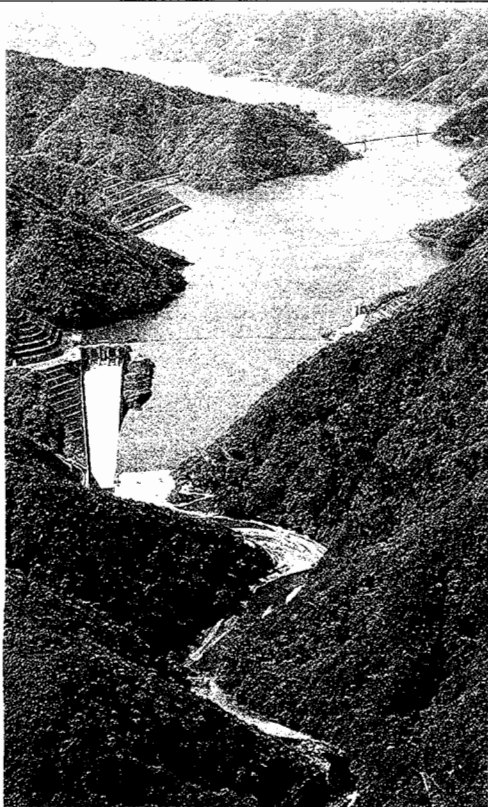
### 徳山ダム導水路

# 「水余り」議論に一石

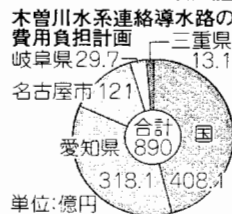
## 名古屋市長 撤退方針 巨額、懸念根強く

名古屋市の河村たかし市長が、国内最大の貯水量を誇る徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の水を木曾川に流す導水路事業からの撤退の方針を示したことは、事業の見直し議論も含め、国や愛知県も巻き込んだ大きな波紋を広げそうだ。有識者からは「引き返す勇氣」を評価する一方、費用を分担する他自治体への影響や、渇水時の対策に疑問の声も上がる。

名古屋市の河村たかし市長も、田中康夫・前長野県知事の「脱ダム宣言」により、徳山ダムの水（二〇〇一年）に端を発した大戸川ダム（大津市）も凍結が決まった。徳山ダムは「昨年、



名古屋市の河村たかし市長が、撤退の方針を示した木曾川水系連絡導水路に水を送る徳山ダム＝14日、岐阜県揖斐川町で、本社ヘリ「あさづる」から



名古屋市長が、国内最大の貯水量を誇る徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の水を木曾川に流す導水路事業からの撤退の方針を示したことは、事業の見直し議論も含め、国や愛知県も巻き込んだ大きな波紋を広げそうだ。有識者からは「引き返す勇氣」を評価する一方、費用を分担する他自治体への影響や、渇水時の対策に疑問の声も上がる。

- <徳山ダムと導水路事業をめぐる動き>
- 1957年12月 徳山ダムの構想浮上
  - 76年9月 建設省（現国土交通省）がダムの事業実施計画認可
  - 89年3月 旧徳山村の全466世帯の移転契約完了
  - 96年10月 名古屋市がダムに確保した利水量毎秒6トのうち3トの返上表明
  - 2000年5月 ダム本体工事に着手
  - 04年2-3月 愛知、岐阜両県と名古屋市が相次いで利水量の一部返上を表明
  - 10月 中部地方整備局が「徳山ダムに係る導水路検討会」を設立。ほかのメンバーは愛知、岐阜、三重各県と名古屋市
  - 06年4月 導水路の実施計画調査に着手
  - 07年8月 第7回導水路検討会。ルートを上流と下流に分割する現行計画で関係機関が合意
  - 08年5月 徳山ダム本格稼働
  - 8月 国交省が導水路の事業実施計画を認可
  - 9月 国交省が水資源機構に導水路事業承継
  - 09年度 導水路着工予定
  - 15年度 導水路完成予定

市も〇四年に利水権の一部を返上している。〇七年に国と東海三県、名古屋市の導水路の環境悪化を指摘。岐阜県も環境調査の結果、

## 「引き返す勇氣を」 「危機管理に疑問」

識者の見方

今回の撤退の動きをどう見るか。識者に聞いた。

「水需要が想定より少なく事業が必要ないのなら、ここまでやっただんだからとさらに無駄な物をつくるのでなく、登山と一緒で引き返す勇氣を持たないといけない」と指摘する。

「水需要が想定より少なく事業が必要ないのなら、ここまでやっただんだからとさらに無駄な物をつくるのでなく、登山と一緒で引き返す勇氣を持たないといけない」と指摘する。

「水需要が想定より少なく事業が必要ないのなら、ここまでやっただんだからとさらに無駄な物をつくるのでなく、登山と一緒で引き返す勇氣を持たないといけない」と指摘する。

命の根源である水の問題を十分な科学的な知見を共有しないまま判断するのは疑問。危機管理のシミュレーションはできているのか」と疑問を呈する。

国際水資源学会副会長を務めた高橋裕東京大名誉教授は「利水面で水の需要は頭打ちだから、気持ちは分かるが、異常気象による気候変動で、将来は分からない。水利用のあり方を生態系や環境の維持などに見直し、導水路事業を存続させるべきだ」と指摘する。